

2020年度 第2四半期 決算説明会 質疑応答要約

Q) P&S 事業の販管費とプロモーション費用についての下期の考え方を教えてほしい。

A) 競合状況にもよるが、全体として、販管費は抑えていくのが基本方針。

特に販社の販管費、プロモ費用は、在庫水準が少ないこともあり、下期を通じて基本的には抑える方向。

一方で、工場は生産の増加に合わせて費用は増加、ブラザー工業の固定費も、新製品の仕込みや空輸対応費用などが増加する見込み。

Q) P&S 事業の下期の LBP と IJP の消耗品の需要前提について教えてほしい。

A) LBP は、PV が SOHO で前年比の約 90%、SMB で約 85%まで回復してきたが、下期は、せいぜい 5 ポイントずつくらいの改善にとどまると見ているため、通期での成長は厳しい。

また Q2 では欧州チャネルでの消耗品買い込みの影響があったが、下期は、それは期待していない。

Q) 産業機器は、この第2四半期、中国で急回復しているが、その内容と継続性について教えてほしい。また通期の上方修正分の内容について教えてほしい。

A) 全般的な状況として、中国を中心に需要が回復傾向。

特に Q2 については、在宅勤務用のノート PC やタブレットなど IT 向けのスポット需要に加え、一般機械、自動車部品などが回復傾向。

今後も、中国を中心に、一般機械、自動車向けが伸びてくる見通し。

Q) カラオケ事業は、来年に向けてどのような取り組みをするのか。

A) カラオケは、コロナウイルスの問題がそう簡単には解決しないことを前提に、取り組みを進めていかなければならない。

例えば、直営店舗の不採算店の閉鎖や、販管費に限らず、費用を削減していくこと。

また、カラオケボックスの用途を変えていくなど、継続していろいろな工夫を重ねていく。

Q) ドミノ事業の Q2 の事業利益には、特殊要因があったのか。下期を低く見ている理由とは。

A) Q2 の特殊要因は特にはない。経済の回復に伴う結果。下期は、ヨーロッパの感染状況が懸念される。Q1 のような経済の落ち込みはないと考えているが、ある程度、慎重に見ないといけない。

以上